

科目名	環境分析学		英文表記	Environmental analysis		2016年3月22日		
科目コード	4407							
教員名: 平良淳誠 技術職員名: 無し						作成		
対象学科/専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
生物資源工学科			4年	必	学修	2単位	講義	後期
科目目標 【MCC目標】	地球レベル及び身近な環境における化学物質を体系的に理解し、化学物質を分析するための理論と方法論を習得することを目標とする。 【V-E-3】【II-C】【II-D】							
総合評価	課題: 課題レポートと実習レポートで評価する(30%) 定期試験: 前期・後期の結果から評価する。(70%) 総合評価: 定期試験の評価とレポートの評価の総合評価で行い、60%以上を合格とする。rで改行							
科目達成度目標とJABEE目標との対応	目標割合	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)	達成度目標の評価方法	ルーブリック				
				理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限必要な到達レベル(可)	セルフチェック	
	30%	① 環境における化学物質を体系的に理解し、社会の要求や課題に関する情報収集をすることができる(A-2)。	化学物質に関する課題レポートと定期試験の結果から評価する。	環境中における有害化学物質の挙動を理解し、記述及び推察できる。	環境中における有害化学物質の挙動を理解し、記述できる。	環境中における有害化学物質を理解し、その挙動を理解している。		
	35%	② 環境分析に関する各方法論の基礎及び複合的な専門知識を学ぶことができる(B-1)。	環境分析の各方法論を理解できたかを、レポート課題と定期試験の結果から評価する。	環境分析法の原理に基づく基礎知識を習得し、環境試料を分析できる。	環境分析法の基礎を理解し、環境試料を分析できる。	環境分析法の基礎を理解している。		
35%	③ 環境分析機器の基礎及び複合的な専門知識を習得することができる(A-2)。	各種分析機器の原理の理解と解析力を実習レポートと定期試験の結果から総合評価する。	各種機器分析の原理を理解し、結果のまとめと解析ができる。	各種分析機器の原理を理解し、結果をまとめることができる。	各種分析機器の原理と活用法を理解している。			
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	JABEEプログラム名称	生物資源工学		
	○		◎		JABEEプログラム教育目標	A-2、B1		
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合								
評価項目	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック	
基礎的理解	①②③	70	0	30	0	100		
応用力(実践・専門・融合)	①②③	65		20		85		
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)		5		10		15		
主体的・継続的学修意欲						0		
授業概要、方針、履修上の注意	1. 地球レベル及び身近な環境に関与している化学物質を体系的に理解する。 2. 環境分析法の基礎を学び、また演習問題を取り入れることで、その理解を高め実際の分析に必要な知識を身につける。 3. 実際の試料で環境分析を行い、環境分析技術の実践的基礎を学ぶ。 4. 実験を行うに当たっては、原則として白衣を着用する。 5. 劇薬品の取扱いには、原則として保護めがね及び手袋を着用するなど安全には十分に気をつける。							

